

2023年5月10日

## 第10回エクセレントNPO大賞 総評

### 1. 第10回エクセレントNPO応募の状況

第10回エクセレントの応募総数は85件、内エクセレントNPO大賞門賞への応募が56件、チャレンジ賞への応募が29件でした。応募数は昨年から増加していますが、コロナ感染症拡大前の数には及んでいません。

収入規模をみると最小額0円、最大額は3億5千万円で、500万円未満が43%、1000万円以上46%、1億円以上が10%でした。つまり、規模が二極化しており、以前より規模の大きな団体の割合が増えています。

また、リピート率は45%、新規率は55%で例年とほぼ同様ですが、チャレンジ賞の新規率は78%で高い傾向にあります。

今回顕著だった変化は活動分野の変化と応募団体の代表者の年齢層です。応募団体の活動分野は毎年少しずつ変化が見られますが、おそらく時代のニーズや関心事、補助制度の影響を受けているものと思われます。今回は出産や育児、健康そして子ども、シニア分野が目立ちました。ちなみに国際協力はコンスタントに応募いただいております、この分野の歴史や蓄積を垣間見ることができます。

チャレンジ賞では若い世代からの応募が目立ちましたが、Z世代がシニアを支援する活動が複数あり、世代間交流という新しい息吹が感じられました。その自己評価書からは、マネジメント論や起業論などを学んでいる様子が窺えました。

### 2. 審査委員会での審議について

#### (1) エクセレントNPO大賞 全日本ピアノ指導者協会

全日本ピアノ指導者協会（以下、ピティナ）は組織力賞とエクセレントNPO大賞を受賞されました。

ピティナはピアノ指導者から構成された団体で、会員数は1.8万人に及びます。ピティナが開催するコンクールの出場者からは、世界で活躍する若手ピアニストが毎年のように輩出されています。しかし、それはエリート教育に特化した活動ではありません。1966年の創設以来、地道に地域会員を増やし地域社会にしっかりと根を下ろした活動を土台にしています。

エクセレントNPO大賞では次の点が高く評価されました。

まず、市民性、課題解決力、組織力の全ての部門で評価が高かったことが挙げられます。その意味でも総合力が高いと言えるでしょう。

また、1966年設立の歴史ある団体ですが、創設者から2代目の代表への世代交代の成功を実現しました。多くの団体が世代交代の悩みを抱える中で、良い例を示しているといえます。

そして、前回応募からの伸び代も評価されました。前回応募のフィードバックコメントで中期計画の必要性が記されましたが、それを受けて、会全体でプロジェクトを立ち上げ検討を始めています。歴史ある組織ではありますが、常に自らを刷新しようとする姿勢も評価されました。

## **(2) 審査委員会の議論**

エクセレントNPO大賞の審査は審査ボランティアによる一次審査と、審査委員会による最終審査の2段階で行われます。いずれもエクセレントNPO基準に基づき審査されますので、審査の観点は統一されています。しかし、それでも毎回、様々な意見が出され活発な議論が交わされています。

ここでは、特に審査委員会で熱心に議論された点について述べます。

審査委員会では、既に前回部門賞を受賞しながら、翌年も同じ部門賞にエントリーし、前年に引き続き受賞することについて議論になりました。エクセレントNPO大賞の場合、大賞を受賞した団体には次からは本賞をサポートする側に回って頂き、応募はしないことを基本としています。他方、部門賞受賞者に対しては、大賞をめざしてくださいと応募を勧めています。

今年度の審査委員会では、前年に引き続き連続して同じ部門賞を授与することについて議論になりました。この団体の自己評価書には、昨年のフィードバックを元に、改善策を打った様子が記されていました。おそらく、この点への審査を希望して昨年と同じ部門賞にエントリーしたのでしょう。審査委員会では、こうした伸び代をどう見るのかという点も議論になりました。

## **3. リポートすることの意味と、フィードバックコメントの効用について**

応募団体の成長や伸び代を確認することができるのは、彼らの約半数が応募のリポーターであるからです。

### **(1) なぜリポートするのか**

なぜリポートするのでしょうか。おそらく、賞や賞金のみをめざすのであれば、容易にリポートしないと思います。

応募された方々からよく聞くのは「フィードバックコメント」を期待しているという点です。本賞では、応募された全ての団体に対してフィードバックコメントをお返ししています。応募用紙にある自己評価書は、15基準ごとに5点満点による採点結果とその理由を述べていただいています。フィードバックコメントは、各々の団体の約

5千字に及ぶ自己評価記述に寄り添うように作成しますが、その内容は、問題点や改善点のみならず、今後への期待を込めた労いや褒める言葉で構成されています。

## (2) フィードバックコメントはどのように作られるのか

ではフィードバックコメントはどのように作られるのでしょうか。

エクセレントNPOでは31名の審査ボランティアが活動しています。その属性は、評価や検査に従事する国家公務員とOB、企業人とOB、税理士などです。これらの人々は、元より評価に関連する知識や経験を有するのですが、エクセレントNPO基準や審査方法について事前説明を受けて審査ボランティアに臨みます。事前説明で最も注意しているのは、上から目線にならないこと、基準に忠実に審査をすることです。これによって、応募団体に寄り添いつつも、審査のバラツキを減らすことにつなげています。

審査ボランティアは、相当量の時間をかけて審査をしていますが、審査を通して、社会課題の現実とNPOの対応の実情を知り、大変勉強になったと述べています。また共感も芽生えるようで、自らが審査した団体がノミネートされたり受賞することを、我が事のように喜ぶ姿がみられます。

## (3) フィードバックコメントの効果

フィードバックコメントの効果とは何でしょうか。まず「振り返りと改善」が挙げられます。フィードバックコメントには、自己評価の記述から読み取れた問題点や改善点が記されます。これらのコメントを組織の課題と受け止め、計画や活動の改善の機会と捉えてメンバーで検討している団体は少なくありません。

もうひとつの効果は「励まし」です。昨年、ノミネート団体の交流会をオンラインで開催しました。出席された多くは団体の事務局長を担っている方々でしたが、「褒めてもらえるのがありがたい」との感想がありました。事務局長やリーダーはスタッフやボランティアを褒めることはあっても、自らが褒められることは意外と少ないようで、フィードバックコメントの中に労いや賞賛の言葉を見出すと「素直に嬉しい」とおっしゃっていたのが印象的でした。

## 4. エクセレントNPOがめざすもの

エクセレントNPOが目標とすることは、NPOが質の向上をめざすことによってNPOと人々の間に好循環が生まれることです。言い換えれば、絶え間なく質の向上をめざすNPOに人々の支援が集まる。そのような環境の中で、更なる質の競争を生み出し、そこに人々の信頼と支援の輪が広がっていくことです。

一方、エクセレントNPOの活動を通して学んだことは、質の向上はNPOのみならず、エクセレントNPOに関わった人々にも育まれてきています。

いま、改めて思うのは、エクセレントNPOの試みは道半ばであるということです。

NPO と人々が織りなす市民社会の好循環に向かって、エクセレント NPO の活動もたゆまず刷新していきたいと思います。